

紫波町教育委員会

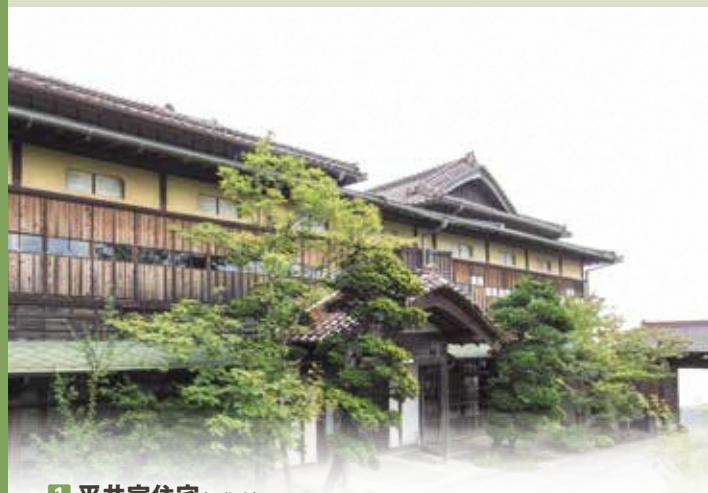
文化財マップ

A Guide
to Cultural Properties
in Shiwa Town



建造物

県内有数の大きさを誇る南部
曲り家のほか、近代以降に建
設された大規模な近代和風建
築、擬洋風建築など、各時代
の暮らしや文化を感じることが
できる歴史的建造物が大切に
受け継がれています。



1 平井家住宅 (国指定)

平井家住宅は、近世初頭に当地に来住した商家、平井家(屋号「伊勢屋」)の所有する近代和風建築の住宅で、12代平井六右衛門によって大正10年(1921)に完成しました。新築祝の宴席は8月14日に催され、当時の首相原敬も出席したことが「原敬日記」に記されています。南部杜氏の一大拠点としての紫波の産業と民俗、北上川舟運や街道の中継点であった紫波の交通環境、八戸藩の飛び地を内包した政治史、これら近世から近代の多様な歴史的背景を今に伝える平井家住宅は、町内の歴史文化の結節点となりうる文化財といえます。



4 旧紫波郡役所庁舎 (県指定)

明治31年(1898)3月に完成したといわれています。現在のところ、設計者・施工者ともにわかつていません。大正12年(1923)に郡制が廃止となりましたが、庁舎だけは郡役所として大正15年(1926)まで存続しました。その後は、紫波郡農会や日詰農業会の事業所として利用されたといわれています。昭和30年(1955)4月に町村合併により紫波町が誕生してからは、町役場庁舎として使用されました。昭和35年(1960)12月に町役場庁舎(現在は移転)の新築に伴い、現在の位置に移築され(この際規模縮小)、町政の拠点の一つとして使用されてきました。



23 武田家住宅 (町指定)

100坪を越える県内有数の規模の曲り家で、主屋は明和3年(1766)、馬屋は明和4年(1767)建設との記録があります。部屋数も多く、架構は極めて豪快、規模雄大、外観意匠も端麗です。座敷の上手には庭園があり、家格の高い家構えを示しています。

無形民俗

盛岡藩お抱えの芸能集団「七軒丁」や早池峰神楽、鹿踊りなど、隣接地域からの影響と民間信仰、娯楽の要素が混ざり合いながら地域特有の芸能文化が育まれてきました。田植踊や念仏剣舞、神楽、大神楽、鹿踊り、さんさ踊りといった多彩な芸能が受け継がれています。



2 山屋の田植踊（国指定）

小正月を中心に行われる予祝行事であるこの田植踊りは、「座敷田植え」と呼ばれるものの一つです。かつて奥州藤原氏が勢力を誇った時代、砂金採取のために京から来住した孫六という人が持ち込んだ田楽や田舞を土地の豪族が気に入り、里人に伝承を受けさせたものがはじまりだといわれています。その年の田植踊りは小正月に庭元宅に集まり笠揃えを行うことからはじめります。冬期間、連日連夜旦那衆の家々を踊り歩いたといわれ、この時期最大の娯楽でした。

18 犬吠森念仏剣舞（県指定）

犬吠森念仏剣舞は、大笠振りと呼ばれる特徴的な踊りを有する大念仏系の念仏剣舞です。元禄6年(1693)銘の巻物を有しており、この頃にはすでに成立していたとみられます。その巻物によれば、旧赤沢村(現在の紫波町赤沢地区)から伝承されたと伝えられていますが、赤沢の念仏剣舞は早い時期に途絶えており、犬吠森念仏剣舞が旧都南村や矢巾町など近郊地域の大念仏系念仏剣舞に影響を与えたことが推測され、県内に存在する念仏剣舞の源流のひとつとして捉えることができます。



19 南日詰大神楽（県指定）

南日詰大神楽は盛岡藩の庇護を受けた芸能集団「七軒丁」の流れを汲む数少ない芸能です。七軒丁から教えを受けたとされる六角流大神楽(花巻市石鳥谷町新堀、現在は廃絶)を師としており、明治20年代から南日詰京田地区を中心に受け継がれてきました。「獅子舞」「囃子舞」「万歳」等、多数の演目を保持しています。近隣の複数の地域へ舞を伝承しており、岩手県内における大神楽の伝播を考える上で重要な存在です。

有形文化財

彫刻



幅広い年代の仏像が受け継がれており、紫波町の特徴の一つとなっています。特に赤沢地区には、奥州藤原氏の一族・比爪とのゆかりが推測される仏像が多数所在します。平泉の佛教文化の一端を今に伝えるものとして貴重な文化財です。



5 木造十一面觀音立像 (県指定)

この観音像は、称徳天皇勅願によって建立されたと言われる高水寺に安置されていた一丈の十一面観音像が、火災によって焼失したために改めて作られたものと伝えられています。当国三十三番札所の第七番観世音として遠近の崇敬を集めています。



6 木造毘沙門天立像 (県指定)

本像は、紫波町赤沢地区の蓮華廃寺に祀られていたものとされ、製作年代は平安時代後期と考えられています。年代的に奥州藤原氏の時代と重なり、像の製作・安置に比爪氏との関わりが推測されます。

撮影／東北歴史博物館



木造降三世明王像



木造軍荼利明王像



木造大威德明王像



木造金剛夜叉明王像

7 木造降三世明王像 外 (県指定)

五大明王は上記四明王に不動明王を加えて構成される組合せです。不動明王を中心、降三世明王は東方、軍荼利明王は南方、大威徳明王は西方、金剛夜叉明王は北方と四方をつかさどります。現在不動明王はありませんが、当初からなかったものか後世に失われたものか定かではありません。いずれの像も損耗著しく両腕、両足とともに欠損しています。本像は、毘沙門天立像と同様、紫波町赤沢地区の蓮華廃寺に祀られていたものとされ、製作年代は平安時代後期と考えられています。年代的に奥州藤原氏の時代と重なり、像の製作・安置に比爪氏との関わりが推測されます。

撮影／東北歴史博物館

8 木造七仏薬師如来立像 (県指定)

「七仏薬師経」による七仏薬師像で、紫波町赤沢地区にある



赤沢薬師堂に安置されています。中尊は約1.3m、脇尊は約85cmの立像で、いずれも右手は施無畏印(指をやや曲げ、掌を前方へ向けている)で、左手には薬壺を持っています。製作年代は7体全て平安時代とみられ、奥州藤原氏の時代の仏像です。平安時代の中尊と脇尊6体の七仏がほぼ完存している例は全国的にも貴重であり、その大きさの上でも類例のないものです。

29 木造地蔵菩薩半跏像 (町指定)

地蔵は大地に内蔵する生命力を象徴し、弥勒仏が出現するまでの無仏の世界にあって、人々を救済する菩薩です。本像は方形の二段框上に岩座、反花、蓮華座を重ね、右足を組み左足を台座から垂らした半跏の姿の地蔵菩薩像で、右手に錫杖を持ちますが、左手にあるべき宝珠は失われています。衲衣は極彩色で宝相華唐草紋が華麗です。頭光は宝珠型で光輪の中にも透かし紋様が刻まれています。高水寺の仏像と伝えられています。



31 木造准胝觀世音菩薩座像 (町指定)

八戸藩初代藩主直房の二男直常の供養のため、旧土館村内に観音堂が建立されました。この観音像は観音堂の本尊です。レントゲン撮影を行ったところ、胎内には、絹で包まれた軸が収められており、直常の人柄や仏像・観音堂に係る記述が確認されました。岩手県内における八戸南部藩関連資料として貴重な仏像です。



27 木造不動明王座像 (町指定)

この像は、もと新山寺の一院にあったもので、明治の廃仏毀釈後、新山神社に安置されたものです。室町時代



の後期の作とされます。像容は頂蓮・辯髪・牙上出相で宝冠はなく、右手に慧刀、左手に羅索を持ち、岩座の一種である瑟瑟座に座しています。像体も台座も寄木造りですが脱落している部分もあります。

28 木造金剛界大日如来像 (町指定)

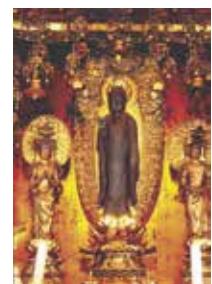
本像は蓮華座に結跏趺坐した金剛界の大日如来で、胸元で智拳印を結んでいます。頭には大日如来が持つ五つの智慧を表す



五智宝冠を頂き、瓔珞などの飾りをまとっています。像体には漆に金箔を押し、白毫は宝石を嵌入し、瓔珞には瑠璃を、宝冠には五智を象徴する宝石を付けています。

30 木造阿弥陀如来立像 (町指定)

一木造りの阿弥陀像で、黒仏様とも呼ばれてきました。頭頂の肉髻の盛り上がりは少なく肉髻珠は欠落しています。額部の白毫は玉ではなく目も玉眼ではありません。顔容は柔軟で肩も緩やかなで肩をしており上品下生印を結びます。衲衣の襞は、桧の御衣木を大まかに厚手に彫ってはぎ付けており、随所に丸のみを使用した跡が見られます。なお、左手及び台座、光背は後世の補作です。



37 鋳造千手觀世音菩薩座像 (町指定)

南日詰島の堂の本尊で、十一面・四十二臂像を造顕したものと思われますが、一面・左十四臂・右十九臂・髻頂の化仏面・宝冠上の仏面も数箇があり、背部は光背と一体となっています。像体が小さいためそれ等の忠実な履行が至難であったためと思われます。台座も同時に鋳造されたものと推測されます。銅製で、像体は小さいですが、まれに見る精巧な仏像です。



有形文化財

工芸品・石碑



平安時代の鏡や鎌倉時代の供養塔、御用鋳物師の梵鐘、近江商人ゆかりの工芸品まで、多彩な文化財が受け継がれています。「もう一つの平泉」と呼ばれる比爪、外来商人で賑わった郡山駅、盛岡藩有数の産出量を誇った金山など、各時代の営みが感じられる文化財が残されています。

13 金銅懸仏 (県指定)

鋳造で鍍金が施されています。光背や鏡板はありませんが、取り付けのための穴が頭部側面に2個、台座に3個あけられています。像は蓮華台に座し4本の腕のうち2本は胸で合掌し、2本は膝の上で宝鉢を持ち、頭部には9体の化仏が略体で刻まれています。両脇には切り欠き部があり別製の脇手を付けた千手観音像であったと推測されます。明治17年(1884)9月、新山寺本堂跡から銅双雀鏡とともに出土しました。鎌倉時代の作で、簡素な造りですが形が整い保存状態も良く、この時代の金銅鋳成の懸仏としては例が少ない貴重な優品です。



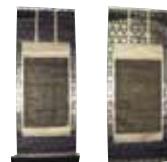
16 不動明王絵像碑 (県指定)

不動明王立像が描かれた絵像碑です。絵像の下には紀年銘が刻まれており、「岩手県金石志」(岩手県教育委員会、昭和36年)では「元亨三年(1323)四月八日」としています。岩手県内では最古の絵像碑とされています。



24 青麻金胎両界曼荼羅 (町指定)

如來の堅固な知慧と、人々の菩提心の姿を、仏部、金剛部など五部により表した「金剛界曼荼羅」と、母親が胎児を育てるように、仏が慈悲の心で衆生救済を行う姿を三部により表した「胎蔵界曼荼羅」の二幅で、当地の仏画資料として貴重なものです。京都絵師の手になるものと見られ、近江商人が郡山(現日詰)で隆盛を極めた頃に青麻権現社に寄進したものと伝えられます。文政年間に再表具されたとの銘があります。



25 志和稻荷木板本地仏懸仏 (町指定)

円形の木版に虚空蔵菩薩の座像が墨書きされた類例の少ない懸仏です。裏面には慶長19年(1614)4月17日奉納の銘が残されています。江戸中期以降、志和稻荷では本地仏を十一面觀音としていますが、当初は虚空蔵菩薩であったことが銘文から明らかです。像容が良く、年代・尊名・本地・願主も明らかなこの懸仏は基準資料、信仰資料として貴重です。



32 京都鍵屋小野家仏壇一式 (町指定)

近江商人として名を馳せた小野家秘蔵のもので、本誓寺の開基である是信房の七百年忌を記念して、同寺に寄進したものです。小野家は江戸時代に京都に本店をおき、京都鍵屋として全国的な組織を持っていました。仏壇一式は仏具・付属品を含めて64点からなっており、仏壇の扉、金障子、引戸などは平日用と祭日用の二揃いあります。仏壇をはじめ仏具一式は江戸期、本尊の木造阿弥陀如来は室町期のものです。

9 銅双雀鏡 (県指定)

明治17年(1884)に新山寺本堂跡から出土しました。鋳造で非常に薄手の鏡です。縁は外開きに立ち上がり内部は縁により一条の円圈をめぐらせて内と外に分けられています。広い内区は双線で櫻文が描かれ、各枠内には三つの星を据え、うち、枠内二つに双雀を配しています。平安時代中期の作で時代の特色をよく示しています。



10 銅菊花双雀鏡 (県指定)

明治19年(1886)に新山寺旧本堂の周りから出土しました。鋳造で縁は鏡の面に直角に立ち上ります。菊花に双雀を配したもので平安時代末期の作です。



11 銅秋草双雀鏡 (県指定)

明治19年(1886)に新山寺旧本堂の周りから出土しました。鋳造で縁は鏡の面に直角に立ち上ります。図柄は、籬の中に咲き乱れる秋草に飛翔する二羽の雀を配しています。平安時代末期の作で作り込みや図柄に時代の特色がよくでています。



12 銅梅花鏡 (県指定)

明治19年(1886)に新山寺旧本堂の周りから銅秋草双雀鏡とともに出土しました。図柄は交差する梅の花が描かれています。薄い作りのため大きくこわれています。平安時代末期の作です。



13 金銅懸仏 (県指定)

鋳造で鍍金が施されています。光背や鏡板はありませんが、取り付けのための穴が頭部側面に2個、台座に3個あけられています。像は蓮華台に座し4本の腕のうち2本は胸で合掌し、2本は膝の上で宝鉢を持ち、頭部には9体の化仏が略体で刻まれています。両脇には切り欠き部があり別製の脇手を付けた千手観音像であったと推測されます。明治17年(1884)9月、新山寺本堂跡から銅双雀鏡とともに出土しました。鎌倉時代の作で、簡素な造りですが形が整い保存状態も良く、この時代の金銅鋳成の懸仏としては例が少ない貴重な優品です。



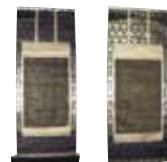
16 不動明王絵像碑 (県指定)

不動明王立像が描かれた絵像碑です。絵像の下には紀年銘が刻まれており、「岩手県金石志」(岩手県教育委員会、昭和36年)では「元亨三年(1323)四月八日」としています。岩手県内では最古の絵像碑とされています。



24 青麻金胎両界曼荼羅 (町指定)

如來の堅固な知慧と、人々の菩提心の姿を、仏部、金剛部など五部により表した「金剛界曼荼羅」と、母親が胎児を育てるように、仏が慈悲の心で衆生救済を行う姿を三部により表した「胎蔵界曼荼羅」の二幅で、当地の仏画資料として貴重なものです。京都絵師の手になるものと見られ、近江商人が郡山(現日詰)で隆盛を極めた頃に青麻権現社に寄進したものと伝えられます。文政年間に再表具されたとの銘があります。



25 志和稻荷木板本地仏懸仏 (町指定)

円形の木版に虚空蔵菩薩の座像が墨書きされた類例の少ない懸仏です。裏面には慶長19年(1614)4月17日奉納の銘が残されています。江戸中期以降、志和稻荷では本地仏を十一面觀音としていますが、当初は虚空蔵菩薩であったことが銘文から明らかです。像容が良く、年代・尊名・本地・願主も明らかなこの懸仏は基準資料、信仰資料として貴重です。



32 京都鍵屋小野家仏壇一式 (町指定)

近江商人として名を馳せた小野家秘蔵のもので、本誓寺の開基である是信房の七百年忌を記念して、同寺に寄進したものです。小野家は江戸時代に京都に本店をおき、京都鍵屋として全国的な組織を持っていました。仏壇一式は仏具・付属品を含めて64点からなっており、仏壇の扉、金障子、引戸などは平日用と祭日用の二揃いあります。仏壇をはじめ仏具一式は江戸期、本尊の木造阿弥陀如来は室町期のものです。



34 正音寺銅鐘 (町指定)

寛永20年(1643)

盛岡の法輪院の鐘として作られたものを、明治2年(1869)同院が磨寺になった際、正音寺が譲り受け移転したもので。龍頭には龍面を、撞座には九曜星紋、周囲には蓮華を配しています。「越前守藤原家綱」と南部藩鑄物師鈴木家初代の銘があります。



46 南日詰乾元二年碑 (町指定)

碑面には梵字「アソ」と建立の趣意を記した銘文が刻まれており、「今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子」とあります。石碑下部中央には紀年銘「乾元二年癸卯七月廿九日」

と刻まれ、西暦1303年に相当します。石碑下部両脇にはそれぞれ「右志趣者為亡息往生」「並乃至法界平等利益也」と刻まれています。文言から「亡息(亡くなった息子)」の「往生」を願うものと解されます。



49 東長岡永仁三年碑 (町指定)

「板碑」と呼ばれる中世に建てられた供養塔の一形で、永仁3年(1295)の銘がある岩手県内陸部有数の古碑です。三尊の種子が刻まれ、その下には瓶が一対刻まれています。願文からは「父母」が「愛子」の供養のために造立したものであることがわかります。



52 金田石卒都婆群 (町指定)

石の供養塔11基で、梵字が刻まれた無紀年の碑8基と白碑3碑が一団となっています。い

ずれも中世のものと思われます。金田館との関連もうかがわれます。



35 新山神社常滑三筋文壺 (町指定)

常滑窯の製品で、浅黄の自然釉がかかり、肩から胴下半にかけて三重沈線を三段に配しています。12世紀第3四半期のものとさ

れ、中にお経を納めた経外容器または蔵骨器として埋納されたものと考えられます。昭和30年頃、新山神社本殿西方の道路拡張工事中に偶然発見されました。新山寺の存在を語る貴重な資料です。



36 新山神社銅秋草双雀鏡 (町指定)



新山神社本殿の北側にあった羽黒堂に出土品として保管されてきました。秋草の中を飛翔する二羽の雀が優雅に描かれています。鎌倉時代初期の作です。

47 犬渕暦応四年碑 (町指定)



「奉納金胎之密法千口尊真言秘密法□□法悉成仏修所」「実鏡」「暦応四年辛巳十月十二日」と刻まれています。真言密教が説くところの成仏の悟りについて実鏡なる者が奉納したものです。このほか五智如来を表す梵字が刻まれていることが『紫波町史』に記されていますが磨滅のため見えません。

50 箱清水石卒都婆群 (町指定)

鎌倉時代になると仏教が大衆にまで広がり庶民の信仰の対象として石による供養碑などが建てられるようになりました。この一帯は奥州藤原氏の一族比爪氏の館内にあったとされる大莊巣寺との関連も考えられます。薬師神社から五郎沼東北側にかけて13基が指定されています。



48 二日町嘉元三年碑 (町指定)

中世に造立された仏教の供養塔で「板碑」と呼ばれる石造物の一つです。町指定史跡「高水寺城跡」の東端部に所在します。碑には「キリーグ(阿弥陀如来)」「サ(聖観音菩薩)」「サク(勢至菩薩)」の阿弥陀三尊の種子と「嘉元三年七月十二日」(西暦1305)の紀年銘が刻まれています。「高水寺城」は、古代以来の寺院「高水寺」を基に南北朝期に造営されたと推測されています。この碑はそれ以前の時代に造立されたもので、寺院「高水寺」の存在を今に伝える文化財です。



51 赤沢石卒都婆群 (町指定)

駒場(1基)、田中(5基)、向井(4基)の3か所に分散しています。

田中のものは平泉初代清衡の父藤原經清の母を供養したものとの伝説が残されています。付近には比爪氏の影響下にあった蓮華寺が所在したとされ、関連が考えられます。



53 下松本ニツ屋五輪塔 (町指定)

五輪塔は下から地・水・火・風・空により構成された密教思想にもとづく供養塔で

す。伝承では高水寺城主斯波氏の家臣、松本清兵衛の墓と伝えられています。中世の五輪塔としては紫波町唯一のものです。



55 キリストン墓碑 (町指定)

自然石に十字架をかたどるように草花の模様が刻まれた石碑です。キリストンの墓と伝えられています。佐比内地区は産金地帯として知られ、金山で働く人々の中にキリストンが多くいたことが江戸時代の古文書などからわかっています。当地域におけるキリストンの信仰を示す文化財として貴重です。



史 跡



紫波町は岩手県のほぼ中央に位置し、早くから開けた地域でした。縄文時代の洞穴住居跡、奥州藤原氏の関連遺跡や、源頼朝が布陣したとされる陣営跡、足利氏の氏族斯波氏の居城跡など縄文時代から古代、中世、近世の各時代を代表する史跡が残されています。



21 川原毛瓦窯跡 (県指定)

近世初期の文献には、この地域から良質の瓦粘土が採集されていたことは記録されていました。平成元年(1989)の調査により、登り窯1基と瓦、陶器等が出土したことから粘土のみならず瓦が生産されていたことが確認されました。また、出土遺物の中に、南部家の家紋である双鶴文を付した軒丸瓦や延宝4年(1676)銘入りの丸瓦が含まれており、盛岡城を整備した文献と一致することから、瓦が盛岡城へ供給された御用窯であることがわかりました。瓦と併せて同時期と思われる陶器(素焼段階のもの含む)も多数出土しており、瓦のほかに日常雑器を生産していたとみられます。産業史の観点からも盛岡藩の歴史を解明する上で貴重な遺跡です。



76 橋爪館跡 (町指定)

奥州藤原氏の一族橋爪(比爪)氏の中心的拠点です。これまで32次にわたる発掘調査が行われ、多量の「かわらけ」や国産陶器、中国磁器、多数の井戸跡や住居跡、建物跡が見つかっています。橋爪館跡には「大莊巖寺」という寺院があったことも伝えられており、政庁・寺院・居住施設などの機能を持った場所であったと推測されます。藤原氏に関連する県内でも有数の遺跡です。



77 高水寺城跡 (町指定)

県内最大規模の城館跡の一つで、中世に当地を支配した高水寺斯波氏の居城跡です。斯波氏は足利氏の支族で、室町幕府の奥州管領に任せられた名族でしたが、南部信直の進攻により滅亡し、天正19年(1591)、「郡山城」と改称され、盛岡城が築かれるまで南部氏の居城とされました。中世城郭の一形態を示す貴重な遺跡です。



78 片寄城跡 (町指定)

高水寺斯波氏
家臣の片寄氏
の居城と考え
られています
が詳らかでは
ありません。
高水寺斯波氏
滅亡後は南部
氏の重臣中野



康実の居城となりました。4つに分かれた丘陵城館で南側が主郭と考えられています。中野康実が郡山城代となり、片寄城が破却された後も片寄城跡に下屋敷を置き知行地の支配を行っていたものと考えられています。昭和50年代、東北自動車道建設にあたり大規模な発掘調査が行われました。

80 大巻館跡 (町指定)

大巻館は文治
5年(1189)
源頼朝の奥州
攻略に従って
武功があった
河村四郎秀清
が斯波郡東部
を拝領し、そ
の子孫季興が



本拠として築いたものと考えられています。河村氏は南北朝時代には南朝方として活躍しますが、後に北朝方として高水寺斯波氏に随従したと伝えられています。大正時代初めに彦部村(現・紫波町彦部地区)が現状のままに整備して「大正園」と名付けられました。現在でも郭・空堀・土塁が残っています。

82 陣ヶ岡陣営跡 (町指定)

古来から交通・軍事
の要衝として知られ、
坂上田村麻呂・源頼
義・義家父子をはじめ
として幾多の史実、伝説を残しています。『吾妻鏡』には、文
治5年(1189)9月4日に源頼朝はここに陣を敷き、総勢28
万4千騎が集結したと記載されています。天正16年(1588)



に斯波氏を攻進した南部信直もここを集結地としています。
歴史的に極めて重要な遺跡の一つです。

79 長岡城跡 (町指定)

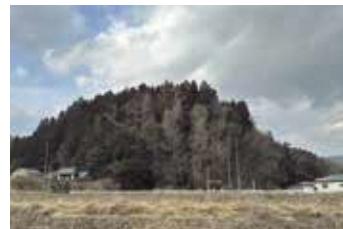
高水寺城北東
の北上川左岸
の丘陵に築か
れた城館跡で
す。城主は高
水寺斯波氏の
重臣である長
岡八右衛門で
長岡、山屋、船



久保、砂子沢の五か村を領していました。高水寺斯波氏敗北後の慶長五年(1600)に斯波氏残党が一揆を起こした際、長岡城へ押し寄せたと伝えられ、当地における重要な拠点の一つだったと考えられます。郭・空堀・土塁が残っています。

81 佐比内城跡 (町指定)

城主は河村秀
清を祖とする
一族と考えら
れています。後
に高水寺斯波
氏の家臣とし
て当地を支配
していました。
佐比内城跡



の山頂部には熊野神社が置かれ、地域の信仰を集めています。郭を中心として内堀・土塁・外堀などが残っています。

89 是信房墓所 (町指定)

是信房は淨土
真宗開祖の親
鸞の高弟で、布
教のため建保
3年(1215)に
奥州を訪れ、拠
点として石森
山本誓寺を創
建しました。仏



教に限らず、読み書きや都の文化も当地に伝えたと伝わっています。是信房の没年については諸説(文永3年(1266)、正嘉2年(1258))ありますが、花巻市にある上人塚で荼毘に付された後、ここ石ケ森に葬られたとされています。

天 然 記念物

寺社の修築記念、伊勢参りの土産、江戸時代の水源涵養林など、人の生活中で守られてきた樹木が多数指定されています。紫波町の暮らしを表すシンボルとして保護されています。



90 御神明のカツラ (町指定)

カツラはカツラ科系に属する高木で一科一属のものです。岩手県には多く生息し種類は、根本から分岐の多い千本カツラ系と孤立木のものと二つに大別されます。本樹は孤立木が途中で二本に分かれたものです。カツラとしては県内有数の大樹です。 ●樹種／カツラ(カツラ科) ●根本周／11.6メートル ●目通周／7.95メートル ●樹高／33.50メートル ●推定樹齢／450年



93 ナラカシワ (町指定)

ブナ科に属する落葉高木で、本州、四国、九州のほか、朝鮮半島、中国東北部、インドシナ半島、インド東北部と広く分布します。本州では岩手県、秋田県以南に見られ、紫波町長岡地区はナラカシワの天然分布の北限とされています。県内では北上川低地帯に限られ、神社、仏閣、庭園に独立樹として点在しており、いずれも大木として知られています。花巻市北笠間の本樹種は県指定天然記念物となっています。 ●樹種／ナラカシワ(ブナ科) ●根本周／1.8メートル ●目通周／1.62メートル ●樹高／12メートル



3 勝源院の逆ガシワ (国指定)

長広山勝源院の庭園にあるガシワの巨木です。ガシワは日本、中国、朝鮮半島、台湾等に広く分布するブナ科の落葉高木で、通常は上向きに直立する性質がありますが、勝源院の逆(さかさ)ガシワは地面際で幹が四方に分かれ、そのまま地を這うように成長し立ち上がっています。根が枝になったような姿から「逆ガシワ」の名で親しまれています。人為による樹形ではなく、この樹の特異な性質によるものとされ、古くから奇木・名木として知られています。大正11年(1922)、植物学者三好学(東京帝国大学教授)の調査を経て、昭和4年(1929)12月に、ガシワとしては最も早く国の天然記念物に指定されました。

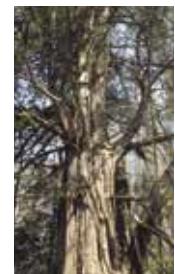
91 大峯のカリン (町指定)

バラ科の落葉高木です。原産地は中国南部です。樹皮は緑色を帯びた褐色でなめらかです。伊勢参りの土産として持ち帰り、植えたと伝わっています。カリンとしては県内2番目の大木といわれています。 ●樹種／カリン(バラ科) ●根本周／2.8メートル ●目通周／2.7メートル ●樹高／12メートル ●推定樹齢／300年



92 サワラ (町指定)

サワラはヒノキ科の常緑高木でヒノキによく似ています。当地で代々藩から堰守や山守を任せられた半田五右衛門にゆかりをもつ樹木と伝えられています。 ●樹種／サワラ(ヒノキ科) ●根本周／7.1メートル ●目通周／4.88メートル ●樹高／21メートル



94 ケヤキ群 (町指定)

ニレ科の落葉高木で灰褐色の樹皮をしています。木宮神社のケヤキは4本同時に植えられたとされていますが、幾度かの火災により1本は消失し、残りの3本にもその痕跡が残っています。樹勢は旺盛で、最大のものは県内でも有数の大木です。 ●樹種／ケヤキ(ニレ科) ●根本周(最大樹)／11.3メートル ●目通周／6.22メートル ●樹高／21メートル ●推定樹齢／400年



95 志和稻荷の大スギ群 (町指定)

斯波、南部両氏の崇敬を集めた志和稻荷神社の境内に群生する杉の大木は、森厳なたたずまいに満ちています。中でも御神木は最大の古木で、「稻荷さんの大杉」と呼ばれて親しまれ信仰を集めています。



97 モウソウダケの群落 (町指定)



願円寺の東南斜面の日当たりの良い場所に、10 アールにわたって約600本が群生しています。200 年程前に第 16 代住職が植えたものと伝えられます。

100 ケヤキ (町指定)

ニレ科の落葉高木で灰褐色の樹皮をしています。県内に広く分布する樹種ですが、走湯神社のケヤキは県下有数の大木とされています。源頼朝が陣ヶ岡を立てる際、走湯権現に奉納するため鏑矢を楓の木に 2 本射立てたことが『吾妻鏡』に記されており(文治五年(1189)九月十一日条)、近世に枯死寸前だったその楓を植え继いだものが当ケヤキと伝えられ「矢立の楓」とも呼ばれています。

- 樹種／ケヤキ(ニレ科)
- 根本周／8.15 メートル
- 目通周／5.55 メートル
- 樹高／27 メートル
- 推定樹齢／350 年



103 ツバキ (町指定)



県央、県北では例を見ない巨樹です。開花時期は 4 月頃で、一斉に数百の花が咲き競う姿は見事です。

98 シラカシ (町指定)



暖帯に生育するブナ科の常緑高木で、福島県以南に分布します。隱里寺のシラカシは植栽されたものですが、自生の北限を大きく越え岩手県でも最大のものです。

101 アサダ (町指定)

カバノキ科の落葉高木です。県内では低山地にしばしば見られ、樹皮は片状に縦にはげるのが特徴です。雌雄同株で 5 月頃葉の出る前に枝先に黄褐色で丸いひも状の雄花をつけ新しい枝先に鮮緑色の雌花をつけます。県内では北上山地に主として分布します。材は堅く家具材として利用されます。当アサダは県下一の太さを誇るといわれています。

- 樹種／アサダ(カバノキ科)
- 根本周／4.3 メートル
- 目通周／3.27 メートル
- 樹高／31 メートル
- 推定樹齢／320 年



104 シダレアカマツ (町指定)



光元寺のシダレアカマツは、大正 5 年(1916)頃、付近から移植したもので、完全な枝垂性のアカマツです。突然変異による珍しいものです。

99 南面のサクラ・ヒガンザクラ群 (町指定)



志賀理和氣神社(赤石神社)の参道沿いに見事な花を咲かせるサクラの並木が続きます。この並木の中程に「南面の桜」と呼ばれて親しまれている一際大きな古木があり、この桜にまつわる桃香姫と藤原頼之の伝説は次の歌とともに涙を誘います。

「南面を慕ひて花は咲きにけり
都の麻呂にかくとつげばや」

102 カシワ (町指定)



ブナ科の落葉高木です。県内でも十指に入る大木で、根元から生えているオオモミジを幹の途中から抱えたかたちとなっているのも見事です。

105 スギ群 (町指定)



ヒノキ科の常緑針葉樹です。水分神社周辺のスギ群は、町内では志和稻荷神社のスギ群に次ぐ大樹です。社殿裏には湧水があり、現在も地域の水源として利用されています。藩政期の水分神社周辺は、盛岡藩の水源涵養林「水ノ目山」に指定され、樹木の伐採が禁止されていました。スギの大樹が伐採されるごとなく現在まで多数生育している背景には、豊富な湧水に恵まれ、厳しい水源林管理によって守られたことが一つの要因とみることができます。





紫波町内指定文化財一覧 (令和6年3月1日現在)

掲載番号	指 定	指定年月日	指定区分	種 別	名 称	所在地等
1	国	平成28年2月9日	重要文化財	建造物	平井家住宅	D-3
2	国	昭和56年1月21日	重要無形民俗文化財	民俗芸能	山屋の田植踊	
3	国	昭和4年12月17日	記念物	天然記念物(植物)	勝源院の逆ガシワ	D-2
4	県	令和3年4月9日	有形文化財	建造物	旧紫波郡役所庁舎	D-3
5	県	昭和38年12月24日	有形文化財	彫 刻	木造十一面觀音立像	
6	県	昭和44年6月6日	有形文化財	彫 刻	木造毘沙門天立像	F-2
7	県	昭和44年6月6日	有形文化財	彫 刻	木造降三世明王像 外	F-2
8	県	昭和56年12月4日	有形文化財	彫 刻	木造七仏藥師如來立像	G-2
9	県	昭和55年3月4日	有形文化財	工芸品	銅双雀鏡	
10	県	昭和55年3月4日	有形文化財	工芸品	銅菊花双雀鏡	
11	県	昭和55年3月4日	有形文化財	工芸品	銅秋草双雀鏡	
12	県	昭和55年3月4日	有形文化財	工芸品	銅梅花鏡	
13	県	昭和55年3月4日	有形文化財	工芸品	金銅懸仏	
14	県	昭和56年12月4日	有形文化財	工芸品	唐冠兜	
15	県	平成17年9月30日	有形文化財	工芸品	盛岡南部家馬印	
16	県	昭和50年3月4日	有形文化財	考古資料	不動明王絵像碑	D-3
17	県	平成20年3月4日	有形文化財	考古資料	山屋館経塚出土品	
18	県	平成27年4月7日	無形民俗文化財	民俗芸能	犬吠森念仏劍舞	
19	県	令和4年4月8日	無形民俗文化財	民俗芸能	南日詰大神楽	
20	県	昭和32年7月19日	記念物	史 跡	舟久保洞窟	G-2
21	県	平成25年5月1日	記念物	史 跡	川原毛瓦窯跡	D-2
22	町	昭和50年3月25日	有形文化財	建造物	志和稻荷内宮殿	A-2
23	町	平成3年4月1日	有形文化財	建造物	武田家住宅	A-2
24	町	昭和50年3月25日	有形文化財	絵 画	青麻胎両界曼荼羅	E-2
25	町	昭和50年3月25日	有形文化財	絵 画	志和稻荷木本地仏懸仏	
26	町	昭和50年3月25日	有形文化財	彫 刻	古町山真治五年伝薬師如來塑像	
27	町	昭和54年11月19日	有形文化財	彫 刻	木造不動明王座像	B-3
28	町	昭和54年11月19日	有形文化財	彫 刻	木造金剛界大日如來像	
29	町	昭和54年11月19日	有形文化財	彫 刻	木造地蔵菩薩半跏像	
30	町	昭和56年4月24日	有形文化財	彫 刻	木造阿弥陀如來立像	B-4
31	町	昭和58年3月1日	有形文化財	彫 刻	木造准胝觀世音菩薩座像	B-3
32	町	昭和50年3月25日	有形文化財	工芸品	京都鍵屋小野家仏壇一式	D-2
33	町	昭和54年11月19日	有形文化財	工芸品	六十二間筋兜	
34	町	昭和54年11月19日	有形文化財	工芸品	正音寺銅鐘	F-2
35	町	昭和54年11月19日	有形文化財	工芸品	新山神社常滑三筋文壺	
36	町	昭和54年11月19日	有形文化財	工芸品	新山神社銅秋草双雀鏡	
37	町	昭和56年4月24日	有形文化財	工芸品	鑄造千手觀世音菩薩座像	D-4
38	町	昭和61年3月28日	有形文化財	工芸品	樟木威靈祠真足	
39	町	昭和50年3月25日	有形文化財	書 跡	志和稻荷建暦二年写経・般若波羅密多経	
40	町	昭和50年3月25日	有形文化財	古文書	志和稻荷 南部利直黒印状	
41	町	昭和50年3月25日	有形文化財	古文書	志和八幡 南部利直黒印状	
42	町	昭和50年3月25日	有形文化財	古文書	源秀院殿自筆稿	
43	町	昭和50年3月25日	有形文化財	古文書	南部利直黒印状等三筆掛軸	
44	町	昭和54年11月19日	有形文化財	古文書	足利直義教書	
45	町	昭和50年3月25日	有形文化財	歴史資料	志和稻荷 天正十六年棟札	
46	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	南日詰乾元二年碑	D-4
47	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	犬渕磨応四年碑	D-4
48	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	二日町嘉元三年碑	D-2
49	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	東長岡永仁三年碑	E-1
50	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	箱清水石卒都婆群	D-3
51	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	赤沢石卒都婆群	G-2
52	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	金田石卒都婆群	B-3
53	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	下松本二ツ屋五輪塔	B-2

掲載番号	指 定	指定年月日	指定区分	種 別	名 称	所在地等
54	町	昭和50年3月25日	有形文化財	考古資料	大日堂 五輪泥塔	
55	町	平成1年12月15日	有形文化財	考古資料	キリシタン墓碑	G-5
56	町	昭和54年11月19日	有形民俗文化財	衣 服	陣羽織 一領	
57	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	彦部田植踊	
58	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	遠山田植踊	
59	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	沢田大神楽	
60	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	赤沢神楽	
61	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	紫野鹿踊	
62	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	宮手鹿踊	
63	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	二日町鹿踊	
64	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	平沢鹿踊	
65	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	四ツ堰鹿踊	
66	町	昭和50年3月25日	無形民俗文化財	民俗芸能	薩沼奴踊	
67	町	昭和54年11月19日	無形民俗文化財	民俗芸能	彦部大神楽	
68	町	昭和54年11月19日	無形民俗文化財	民俗芸能	岡田田植踊り	
69	町	昭和54年11月19日	無形民俗文化財	民俗芸能	船久保さんざ踊り	
70	町	昭和54年11月19日	無形民俗文化財	民俗芸能	中陣大神楽	
71	町	平成14年10月29日	無形民俗文化財	民俗芸能	星山神楽	
72	町	平成14年10月29日	無形民俗文化財	民俗芸能	櫻町田植踊り	
73	町	平成14年10月29日	無形民俗文化財	民俗芸能	権現堂さんざ踊り	
74	町	平成24年5月23日	無形民俗文化財	民俗芸能	日詰かじ町さんざ踊り	
75	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	善知鳥館跡	D-4
76	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	槌爪館跡	D-3
77	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	高水寺城跡	D-2
78	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	片寄城跡	B-4
79	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	長岡城跡	E-1
80	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	大谷館跡	E-3
81	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	佐比内城跡	G-5
82	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	陣ヶ岡陣営跡	C-2
83	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	志和稻荷街道跡	
84	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	安倍道跡	
85	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	鎌倉街道跡	D-4
86	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	木戸脇一里塚	F-3
87	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	土館新山寺跡	A-3
88	町	昭和50年3月25日	記念物	史 跡	土館源勝寺跡	B-3
89	町	平成1年12月25日	記念物	史 跡	是信房墓所	E-4
90	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	御神明のカツラ	G-5
91	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	大峯のカリン	E-3
92	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	サワラ	H-1
93	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	ナラカシワ	E-1
94	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	ケヤキ群	D-2
95	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	志和稻荷の大スギ群	A-2
96	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	シダレザクラ	
97	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	モウソウダケの群落	B-3
98	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	シラカシ	B-3
99	町	昭和50年3月25日	記念物	天然記念物(植物)	南面のサクラ・ヒガンザクラ群	D-3
100	町	昭和54年11月19日	記念物	天然記念物(植物)	ケヤキ	D-2
101	町	昭和54年11月19日	記念物	天然記念物(植物)	アサダ	G-1
102	町	昭和54年11月19日	記念物	天然記念物(植物)	カシワ	A-2
103	町	昭和57年5月7日	記念物	天然記念物(植物)	ツバキ	A-2
104	町	昭和57年5月7日	記念物	天然記念物(植物)	シダレアカマツ	B-2
105	町	昭和57年5月7日	記念物	天然記念物(植物)	スギ群	A-1

文化財の見学について

文化財は、かけがえのない貴重な財産です。
見学に際しては下記のことについて注意してください。

- 文化財の中には信仰の対象になっているものもありますので、信仰している人の気持ちを理解し尊重して迷惑にならないように見学してください。
- 他人の家や社寺など建物の中に無断で入らないようにしましょう。
- 許可なく文化財に触れたり、動かしたりしないでください。また、写真撮影や拓本などは、許可を得てから行ってください。
- 文化財には時期を限定して公開しているものや、公開していないものもありますので事前に調べてから見学してください。
- 自分で出したゴミは、自分で持ち帰りましょう。

紫波町の 名誉町民

植物採集研究者

須川長之助

1842～1925

紫波町初代町長

村谷永一郎

1909～1969

万葉集研究家
第一高等学校校長

菊池寿人

1864～1942

児童文学者・歌人

巽聖歌

1905～1973

元・岩手県知事

中村直

1912～1996

音楽評論家

「錢形平次捕物控」作者

野村胡堂

1882～1963

篤農家
(多産鶏・蚕種改良)

橋本善太

1892～1956

紫波町文化財マップ

編集・発行／紫波町教育委員会生涯学習課

発行日／令和6年3月

〒028-3392

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1

TEL 019-672-2111 FAX 019-672-1553

E-mail syogaigakusyu@town.shiwa.iwate.jp